

豊監報第3-2号

令和3年2月25日

豊岡市監査委員 保 田 勇 一

豊岡市監査委員 中 嶋 英 樹

豊岡市監査委員 松 井 正 志

財政援助団体等に対する監査（出資団体監査）結果報告について

（ 豊岡まちづくり株式会社 ）

地方自治法第199条第7項の規定に基づき、財政援助団体等に対する監査（出資団体監査）を実施したので、同条第9項の規定により、その監査の結果に関する報告を別紙のとおり提出します。



財政援助団体等監査結果報告書  
(出資団体監査)

**第1 監査の種類**

地方自治法第199条第7項の規定による監査（出資団体監査）

**第2 監査の対象**

1 監査の対象

豊岡まちづくり株式会社

(当該団体の事業に係る環境経済部環境経済課の事務を含む。)

2 選定理由

以下の事由により、当年度の監査対象とした。

- (1) 前回の監査は、2014（平成26）年10月に実施しており、一定の期間を経ている。
- (2) 事業が出資の目的に沿って良好に運営されているか確認するため
- (3) 所管課として経営に対する指導及び経営状況の確認を行っているかなどを確認するため

**第3 監査の目的と範囲**

出資している団体の当該財政的援助等に係る出納その他の事務の執行が当該財政的援助等の目的に沿って行われているか監査すること、当該事務が関係法令及び規程等に準拠し適正で効率的かつ効果的に行われているかを、関係者によるヒアリングや証ひょう書類等を突合するなどの監査手続を通じて試査する。

特に今回の監査は、豊岡まちづくり株式会社（以下「会社」という。）における出納事務手続、その他関係事務について、適時適切に行われているかという観点から、第23期から第25期までの3年間（2017年4月1日～2020年3月31日）の決算並びに第26期（2020年4月1日～2020年11月30日）における現状を監査の対象範囲として実施した。

また、会社に係る環境経済課の事務が、関係法令等にのっとり適切に処理されているか検査した。

**第4 監査の着眼点**

監査の実施にあたり、監査の着眼点を次のとおり設定した。

1 出資団体関係

- (1) 定款及び規程等に基づいた事務が執行されているか。
- (2) 設立目的に沿った事業運営が行われているか。
- (3) 決算諸表等は、法令等に準拠して作成されているか。
- (4) 事業成績、財政状況は適正に決算諸表に表示されているか。
- (5) 経営成績及び財政状況は良好か。
- (6) 出納関係帳票等の整備、記帳は適正になされているか。また、証拠書類の整備、保存は適切か。
- (7) 会計経理及び財産管理は適切か。活用されていない財産等はないか。
- (8) 資金運用は適切か。また、経費節減は図られているか。

- (9) 現金や預金通帳、印鑑の管理体制は適切か。
- (10) 地元地域の方々との連携・協力の体制はどうか。

## 2 所管部局関係

- (1) 経営成績及び財政状況を十分把握し、適切な指導監督を行っているか。
- (2) 出資者としての権利行使は適切に行われているか。
- (3) 出資団体への委託業務等が適切に処理されているか。
- (4) 出資団体との連絡・調整等が十分行われているか。

## 第5 監査の主な実施内容

### 1 事前監査（予備調査）の実施

会社及び環境経済課を対象に、監査委員事務局職員による事前監査（予備調査）を実施した。事業が出資の目的に沿って良好に運営されているか、出納その他の事務が関係法令や規程などに従って適正に処理されているかなどを主眼に、会計諸帳簿その他関係書類の一部を抽出して調査するとともに、関係職員に対する質問等の方法により実施した。

事前監査においては、主な着眼点毎に、内部統制の整備状況及び運用状況について、事前監査点検事項を設定する方法により監査を実施した。

- (1) 実施日 2021年1月21日

### 2 監査委員監査（本監査）の実施

- (1) 実施日 2021年1月28日
- (2) 監査委員名 監査委員 保田 勇一、監査委員 中嶋 英樹、監査委員 松井 正志
- (3) 基準等 豊岡市監査委員監査基準及び監査等の実務ガイドライン（全国都市監査委員会編集）

## 第6 監査の実施期間

- 1 実施場所 豊岡市役所本庁舎及び会社
- 2 監査の期間 2020年12月1日から2021年2月19日

## 第7 監査の結果

今回の監査は、豊岡市の出資団体である会社について、第23期から第25期までの3年間の経営状況等、第26期における現状に係る事務について聴取し、関係諸帳簿の検査を実施した結果、会社の事業は出資目的に沿って適正に運営されていると認められる。

なお、今回の監査における要望事項等は、「5 監査の総括及び所見」に述べているとおりであるので、これらの要望事項等に関しては検討を求める。

また、軽易な注意事項等についてはその都度口頭で改善指導したので、記述を省略した。以下、監査結果は次のとおりである。

文中及び各表中の計数は、原則として表示単位未満を四捨五入により端数処理した関係上、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

## 1 団体の概要

### (1) 概要 (2020年3月31日現在)

団体の名称	豊岡まちづくり株式会社
設立年月日	1995(平成7)年5月2日 豊岡市の中心市街地の活性化を図るため、第3セクターの商業法人として設立
資本金	91,800千円(設立時 81,000千円)
株式数	1,836株 1株につき50千円
株主数	120名
豊岡市からの出資	918株 45,900千円(出資割合 50.00%) 設立時 800株 40,000千円 追加保有(2012年9月18株900千円、2013年7月 100株5,000千円)
所在地	(本社) 豊岡市大磯町1番79号 一般財団法人但馬地域地場産業振興センター内 (支店) 豊岡市中央町18番10号 Toyooka KABAN Artisan Avenue
主な事業	2事業5部門を行っている。 アルチザン事業 ・アトリエショップ部門・アトリエネット部門 ・スクールⅠ部門・スクールⅡ部門 学校給食配送事業 ・学校給食配送部門

### (2) 組織

代表取締役 足立 哲宏、取締役7名、監査役2名 (2020年11月30日現在)

定款により取締役12名以内、監査役3名以内と定められている。

<社員>

(単位：人)

	第23期末 (2018. 3. 31)	第24期末 (2019. 3. 31)	第25期末 (2020. 3. 31)	第26期 (2021. 1 現在)
社員	6	7	6	8
パート	13	12	14	14
合計	19	19	20	22

組織は、代表取締役、取締役会、業務部、総務部で構成されている。業務部にはスクール事業課及びショップ事業課の2課があり、アルチザン事業の一環であるアトリエ部門・スクール部門を行っている。総務部には給食事業課及び総務経理課の2課があり、学校給食配送事業等を運営している。

学校給食配送業務は、4台の給食配送車を使用し、12名のパート社員によって市内の小中学校9校へ給食を配送している。

## 2 財務状況の分析

会社の会計は、複式簿記会計によって処理されており、決算報告書も貸借対照表、損益計算書等としてまとめられ、監査役の監査を受けて、株主総会に報告されている。

第25期(2019年4月1日～2020年3月31日)の営業活動にかかる財務関係書類を主に調査したところ計数的な誤りはなく、概ね適正に処理されていた。

第23期から第25期の3か年の財務状況は、以下のとおりである。

(1) 損益計算書

(単位:千円、%)

区 分		第23期 決算額	第24期 決算額	第25期(2019.4.1~2020.3.31) 決算額	前期比較	
					増減額	増減率
営業 損益 の 部	営業収益 (売上高) a	114,249	143,609	152,133	8,524	5.9
	アルチザン事業収入	102,749	131,434	138,865	7,431	5.7
	学校給食配送事業収入	11,500	12,175	13,268	1,093	9.0
	営業費用 b	106,919	130,091	139,934	9,843	7.6
	売上原価	43,111	62,196	62,596	400	0.6
	販売費及び一般管理費	63,808	67,895	77,338	9,443	13.9
	① 営業利益 (△損失) a - b	7,330	13,518	12,199	△ 1,319	△ 9.8
営業 外 損 益 の 部	営業外収益 c	2,064	436	1,147	711	163.1
	受取利息・配当金	4	4	4	0	0.0
	雑収入	2,060	432	1,143	711	164.6
	営業外費用 d	0	4	0	△ 4	△ 100.0
	雑損失	0	4	0	△ 4	△ 100.0
		② 営業外利益 (△損失) c - d	2,064	432	1,147	715
	③ 経常利益 (△損失) ①+②	9,394	13,950	13,346	△ 604	△ 4.3
特別 損 益 の 部	特別利益 e	5	0	0	0	-
	貸倒引当金戻入益	5	0	0	0	-
	特別損失 f	230	0	0	0	-
	固定資産売却損	230	0	0	0	-
	④ 特別利益 (△損失) e - f	△ 225	0	0	0	-
	⑤ 税引前当期純利益 (△損失) ③+④	9,169	13,950	13,346	△ 604	△ 4.3
	⑥ 法人税、住民税及び事業税	1,945	3,770	3,371	△ 399	△ 10.6
	⑦ 当期純利益 (△損失) ⑤-⑥	7,224	10,180	9,975	△ 205	△ 2.0

第25期(2019年4月1日~2020年3月31日)の経営成績は、営業収益152,133千円(対前期比8,524千円、5.9%増)、営業利益は、12,199千円(対前期比1,319千円、9.8%減)、経常利益は、13,346千円(対前期比604千円、4.3%減)、当期純利益は9,975千円となっており、第24期(2018年4月1日~2019年3月31日)と比較すると205千円、2.0%減となっている。

## (2) 貸借対照表

(単位:千円、%)

区 分	第23期	第24期	第25期 (2019.4.1~2020.3.31)		
	決算額	決算額	決算額	前期比較	
				増減額	増減率
流動資産	92,153	116,099	120,444	4,345	3.7
現金・預金	75,083	100,957	101,830	873	0.9
売掛金	8,286	11,835	12,048	213	1.8
商品・製品	6,624	1,924	4,752	2,828	147.0
その他流動資産	2,160	1,383	1,814	431	31.2
固定資産	18,084	12,678	11,635	△ 1,043	△ 8.2
(有形固定資産)	(13,811)	(12,243)	(11,087)	△ 1,156	△ 9.4
建物・付属設備・構築物	1,003	969	935	△ 34	△ 3.5
工具器具備品	12,507	10,973	9,851	△ 1,122	△ 10.2
土地	301	301	301	0	0.0
(投資その他の資産)	(1,003)	(405)	(300)	△ 105	(△ 25.9)
ソフトウェア	703	105		△ 105	皆減
電話加入権	300	300	300	0	0.0
(投資その他の資産)	(3,270)	(30)	(248)	(218)	(726.7)
出資金	30	30	30	0	0.0
長期前払費用	3,240		218	218	皆増
資産の部 合計	110,237	128,777	132,079	3,302	2.6
流動負債	17,683	27,717	22,718	△ 4,999	△ 18.0
買掛金	6,199	7,667	7,495	△ 172	△ 2.2
未払金・未払費用	2,550	1,347	1,781	434	32.2
未払法人税・消費税等	2,425	5,745	3,822	△ 1,923	△ 33.5
前受金	6,380	8,320	9,320	1,000	12.0
預り金	129	4,638	300	△ 4,338	△ 93.5
固定負債	5,286	3,612	1,938	△ 1,674	△ 46.3
長期未払金	5,286	3,612	1,938	△ 1,674	△ 46.3
負債の部 合計	22,969	31,329	24,656	△ 6,673	△ 21.3
株主資本	87,268	97,448	107,423	9,975	10.2
(資本金)	(91,800)	(91,800)	(91,800)	(0)	(0.0)
(利益剰余金)	(△ 4,532)	(5,648)	(15,623)	(9,975)	(176.6)
繰越利益剰余金	△ 4,532	5,648	15,623	9,975	176.6
純資産の部 合計	87,268	97,448	107,423	9,975	10.2
負債及び純資産の部 合計	110,237	128,777	132,079	3,302	2.6

- ※ 第25期末有形固定資産の減価償却累計額 9,507,779円
- ※ 第24期末有形固定資産の減価償却累計額 7,773,458円
- ※ 第23期末有形固定資産の減価償却累計額 6,039,137円

〔資産の部〕

第25期の資産総額は132,079千円で、前期と比較すると3,302千円、2.6%増加している。これは主として商品・製品の増加に伴うものである。

流動資産総額は120,444千円で、主なものは現金及び預金101,830千円、売掛金12,048千円、商品・製品4,752千円である。流動資産総額を前期と比較すると、4,345千円、3.7%増加している。

固定資産総額は11,635千円で、主なものは有形固定資産の工具器具備品9,851千円である。固定資産総額を前期と比較すると1,043千円、8.2%減少している。

〔負債の部〕

第25期の負債総額は24,656千円で、前期と比較すると6,673千円、21.3%減少している。これは主として預り金の減少に伴うものである。

流動負債総額は22,718千円で、主なものは買掛金7,495千円、前受金9,320千円である。固定負債総額は1,938千円で、長期未払金である。

〔純資産の部〕

第25期の純資産の合計額は107,423千円で、前期と比較すると9,975千円、10.2%増加している。これは、繰越利益剰余金の増加に伴うものである。

第25期の資本金は91,800千円で、前期と同額である。

第25期の利益剰余金は15,623千円で、前期と比較すると9,975千円改善している。

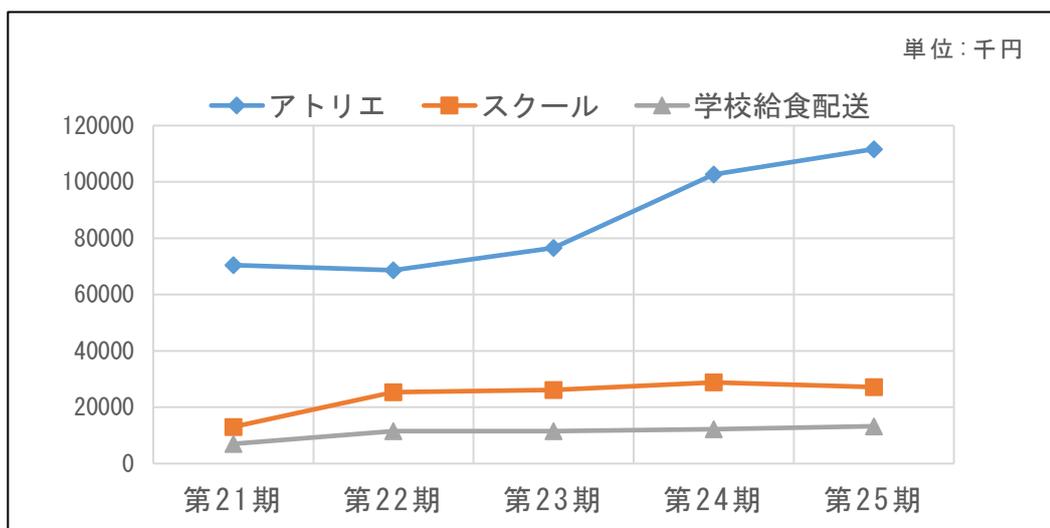
### 3 営業成績及び財産状況の推移

(1) 部門別売上高の推移

(単位：千円)

区 分		第21期	第22期	第23期	第24期	第25期	第26期
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
アルチザン事業		83,526	93,947	102,749	131,434	138,865	88,124
内 訳	アトリエ	70,489	68,644	76,621	102,616	111,659	75,722
	スクール	13,037	25,303	26,127	28,818	27,206	12,402
学校給食配送事業		7,000	11,500	11,500	12,175	13,268	9,114
合 計		90,526	105,447	114,249	143,609	152,133	97,238

※ 第26期は、11月末数値



(2) 第25期 部門別損益 (単位：千円)

区分	総合計	アルチザン アトリエ ショップ部門	アルチザン アトリエ ネットショップ部門	アルチザン スクール I 部門	アルチザン スクール II 部門	学校給食 配送部門
売上高	152,133	78,354	33,305	13,722	13,484	13,268
売上原価	62,596	45,220	17,376	0	0	0
売上総利益	89,537	33,134	15,929	13,722	13,484	13,268
販売費及び 一般管理費	77,338	26,251	14,461	13,644	12,111	10,871
営業利益	12,199	6,883	1,468	78	1,373	2,397

アルチザン事業では、ショップ直販を中心とした鞆販売のアトリエショップ部門、ネットサイトでの鞆販売のアトリエネット部門、鞆職人養成スクールのスクール I 部門、財布専科のスクール II 部門、学校給食配送事業では、学校給食配送部門の 1 部門の 5 部門に取り組んでいる。

(3) 営業成績及び財産状況等推移 (単位：千円)

区分	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期	第26期
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
営業利益	7,589	5,814	7,330	13,518	12,199	8,411
経常利益	12,922	9,861	9,394	13,950	13,346	11,242
当期純利益	11,859	7,124	7,224	10,180	9,974	9,622
総資産	86,812	101,928	110,236	128,776	132,078	144,851
純資産	72,919	80,043	87,267	97,447	107,422	117,044

※ 第26期は、11月末数値

※ 単位未満の端数を切り捨てて表示

(単位：千円)

区 分		第21期	第22期	第23期	第24期	第25期
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
株主 資本	資本金(期末)	91,800	91,800	91,800	91,800	91,800
	利益剰余金	△18,881	△11,756	△4,532	5,648	15,623
	株主資本合計	72,919	80,044	87,268	97,448	107,423

#### (4) 豊岡市からの主な委託事業等

##### ア 学校給食配送業務

一般競争入札により、2018年8月に2020年度末までの3年間の委託契約を行っている。会社は、市内の6小学校及び3中学校へ、遅滞なく安全無事故で配送を行っており、最終年度である2020年度も同じく各校へ配送業務を行っている。

##### イ 革製品・革小物生産能力育成業務

2015から2019年度までの5年間委託契約を行っている。会社は、靴企業社員向けの財布小物講座を中心とした、革製靴・革小物づくりの技術講習のための講師確保・受入れ、講習に必要な機械の導入、技術講習の実施などを行っている。2020年度は、受講社員を中心に数社が財布事業を立ち上げている。

##### ウ 販路拡大支援事業補助金

2017年度電子商取引サイト制作支援を目的とする市の補助金300千円を活用し、会社は、兵庫県靴工業組合と連携したオフィシャルオンラインストアの構築を行っている。

##### エ 豊岡財布生産能力育成事業補助金

財布などの革小物生産に係る人材育成事業を支援することにより、靴産業の新たな分野としての定着を図り、靴産業を振興することを目的とする市の補助金を活用し、2020年5月には、会社が「アルチザン財布専科」を開校し、きめ細やかな指導により、型紙の作成から裁縫まで一人で財布が作れる職人の育成を目指している。2020年度市は、2,796千円の補助金交付決定を行っている。

#### 4 主な取組状況（第26期事業計画などより）

- (1) 「カバンストリート」を、インバウンドの方を含む観光客が憩える集客地にすべく、関係者と連携を図っている。看板設置などにより誘導し、誘客に努めている。
- (2) アトリエショップ部門では、アルチザン直販店を核として、豊岡カバンの売上増と国内での認知度の向上を図っている。カバンは、魅力があって面白いものであるということやカバンの力を活かしていく情報発信に努めている。また、他市の特産品とのコラボレーションカバンを製作販売したり、オリジナル靴のデザインコンペを実施したりしている。
- (3) アトリエネット部門では、ネット掲載事業者との毎月の対策の見直しや、各種イベント企画の充実、会社によるサイト掲載ページの質の向上などを行っている。
- (4) スクールⅠ部門では、2020年度東京都や福岡県など全国各地から13名が入学している。靴づくりだけでなく、原価計算から靴業業界の現状、さらには豊岡市の目指すものなど広く学んでいる。
- (5) スクールⅡ部門では、2020年5月「財布専科スクール」として6名の受講者でスタートしている。初年度は年間10名の受講生を予定している。

- (6) 学校給食配送部門では、日々の車両点検等の徹底により車両管理経費の節減に努めている。生徒児童へ安心安全をもって給食を届けることができるように新人配送スタッフの車両操作講習を実施し日々の無事故運行を心掛けている。

## 5 監査の総括及び所見

第25期（2019年4月1日～2020年3月31日）の営業活動にかかる財務関係書類を抜粋して照合したところ計数的な誤りはなく、出納その他の事務については、適正に処理されていると認められた。今後も適正な事務処理に努められたい。

2020年度の補助金について、豊岡市補助金等交付規則及び豊岡市補助金等交付要綱に基づき手続きされ、補助金の目的に沿って適正に交付決定されていることを確認した。会社は補助金の目的に沿って適正に執行されたい。

### (1) 総括

会社は、豊岡市、豊岡商工会議所及び商業者などが出資し、中心市街地の活性化を図る機関として1995年5月に設立され、定款に定められている会社が目的とする事業内容は多岐にわたっていた。

設立当初は商業店舗の設置・管理、カード事業の運営、物品の販売などに取り組んできた。しかし、設立当初と今日の地域経済や市民生活を取り巻く環境は大きく変わり、中心市街地の人口減少、高齢化の進展、商店街の機能低下により賑わいが少しずつ失われ、市街地の空洞化が進行してきた。

このような状況から脱却するため、会社は、2011年1月に豊岡商工会議所とともに中心市街地活性化推進協議会を設立し、中心市街地の活性化に向け、宵田・カバンストリートの大型空き店舗を活用した「かばん」をキーワードとする事業や拠点施設などを盛り込んだカバンアルチザンスクエア事業計画を豊岡市に提出し、豊岡市は、中心市街地活性化計画の一環として、カバンアルチザンスクエア事業を「かばんを活かしたまちづくり事業」として位置づけ推進することとした。

その結果、会社は豊岡市から補助金の交付、そして関係団体からも支援金などを受け、「トヨオカ カバン アルチザン アベニュー（宵田商店街空き店舗活用）事業」として取り組み、2012年度には事業用の土地・建物の取得、2013年10月には「かばん」を中心とした集客拠点施設（ショップ部門）及びかばん業界の将来を担う人材育成施設（スクール部門）の整備に着手し、2014年3月に完成した。

カバンアルチザンスクエアは、1階アトリエ（かばんショップ）、2階パーツ（素材パーツやキット商品販売）、3階スクールとして事業展開してきたが、現在はアトリエ及びスクールを行っている。

会社は、恒常的な赤字経営で厳しい経営状況にあったが、事業の整理・改善により、第24期決算において、累積赤字額が解消されている。現在は、アルチザン事業及び学校給食配送事業の2事業を行っている。

会社は、日本有数のかばん産地である豊岡に、かばん産業を象徴する拠点施設を構え、運営することで、集客、地域経済活性化に寄与し、地場産業のかばん産業の未来を担う人材を育成することを目的として運営されている。引き続き、各事業の収入増加に努めるとともに徹底した経費の見直しを行うなど、関係者一同の一層の経営努力を要望するものである。

また、地元地域の方々との連携・協力の体制のもと事業展開されることを期待する。

(2) 監査結果の要望事項等は次のとおりである。

ア 出資団体関係

**〔要望事項〕**

(ア) アルチザン事業の一環であるアトリエショップ部門には、店長ほか4名の従業員を配置し、豊岡カバンの販売拡大と国内での認知度の向上を図っている。豊岡カバンのみならず、豊岡市の魅力発信をも担っている。コロナ禍の影響により厳しい状況が続いているが、この事業には大いなる伸びしろがあると感じている。今後の会社の取組が、新たな事業の展開につながることを期待するものである。

(イ) スクール部門は、豊岡出身の主任講師、東京からのデッサン・デザインの短期特別講師、卒業生の講師4名体制でカバン職人の育成を行っている。スクールの卒業生の大半は地元就職し、人材育成の機能を果たしている。引き続き次世代を創り出すカバン職人の育成に努められることを期待する。また、カバン職人が豊岡市の未来を担う子どもたちに、豊岡カバンの魅力を伝え、子どもたちが豊岡カバンへの愛着心を持っていくことを期待する。

イ 所管課関係

**〔要望事項〕**

取締役役に市環境経済部長が就き、業務監査を担当している。定款に基づく規定の順守を行い、利益相反の状態が生じることのないように留意されたい。

また、所管課である環境経済課は、四半期ごとの収支、決算の状況等を精査し、今後も会社と連絡調整を行い、経営成績及び財政状況を十分把握し、適切な指導監督を行われたい。